

# マイナビキャリアリサーチLab 卸売業レポート（2023年8月）

マイナビキャリアリサーチLab 編集部

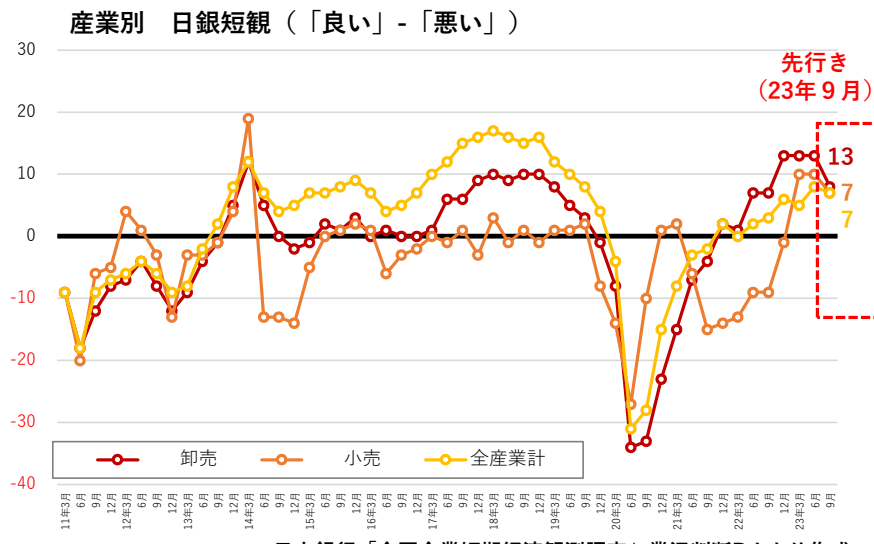
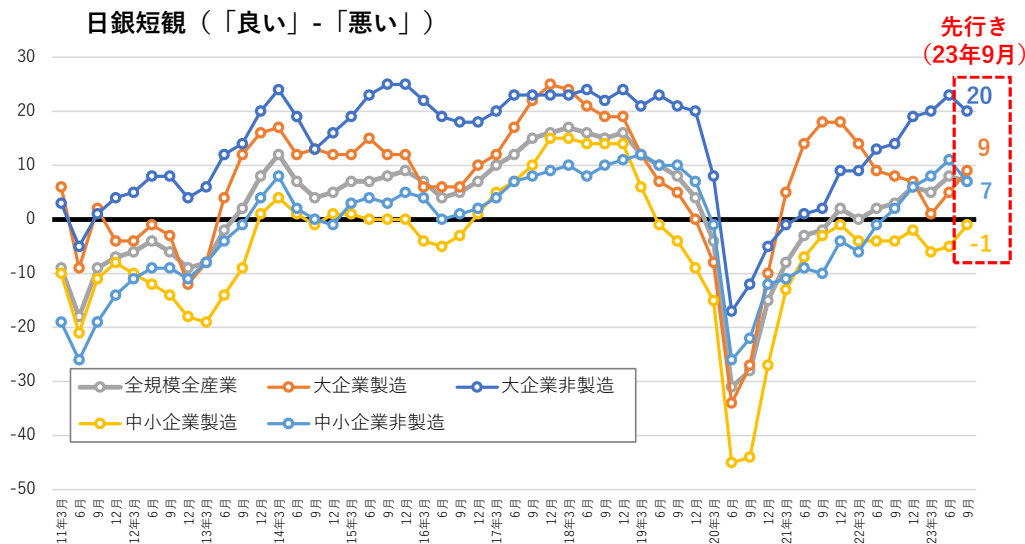


これら資料は、作成日時時点で弊社が信頼に足ると思われる資料に基づいて作成しておりますが、弊社が実施していない調査などに関して情報の正確性を弊社が担保するものではありません。

また、これら資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。  
ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。

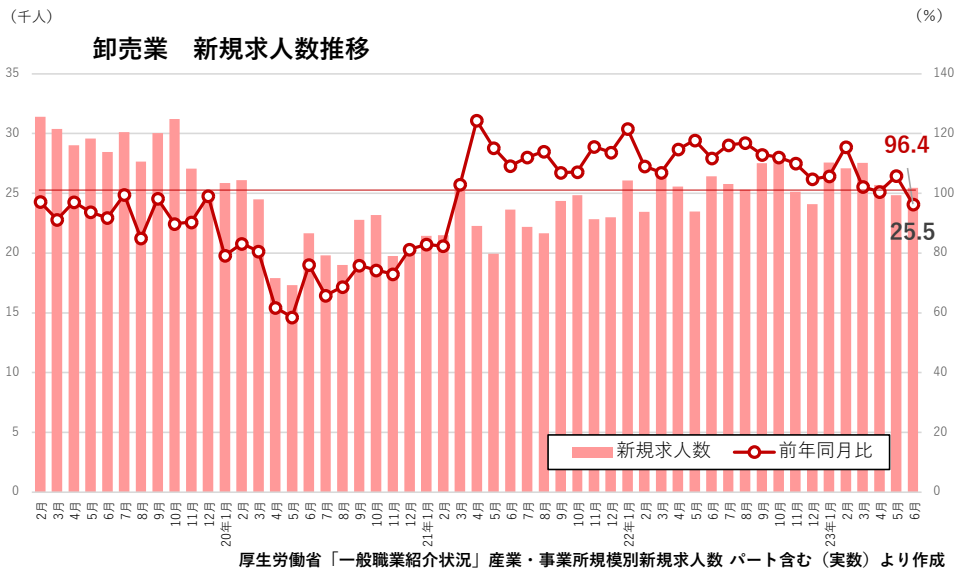
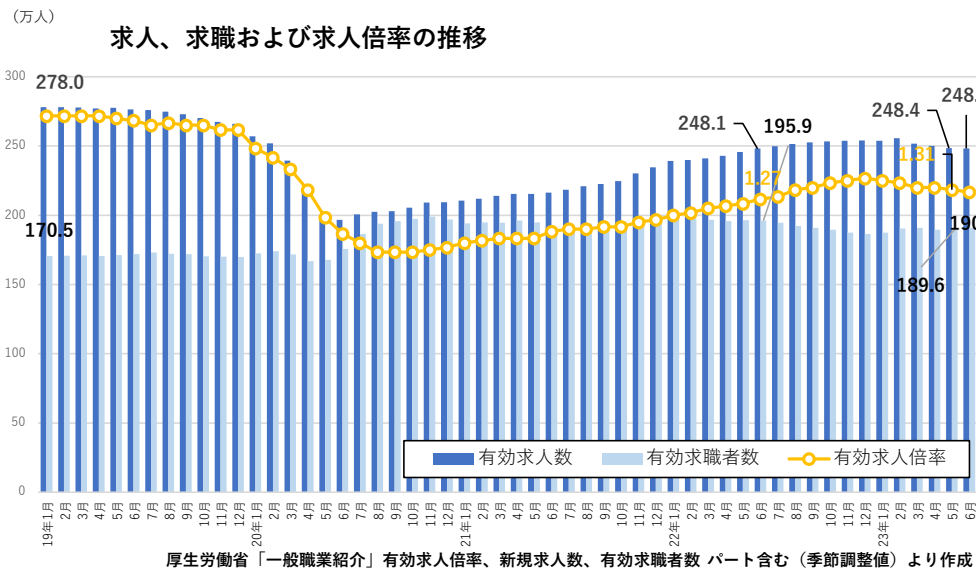
# 業況感は製造業・非製造業ともに小幅の改善 先行きについては製造業は改善傾向、非製造業はやや悪化

- ・企業の業況感は全体として改善がみられるものの、先行きはやや下降している。6月は、製造業、非製造共に改善がみられた。製造業では、海外経済の回復ペース鈍化やIT関連財の調整圧力は引き続き意識されているものの、供給制約の影響緩和や原材料コスト高の一服、価格転嫁の進展から、大企業を中心に改善した。非製造業は、感染症の影響緩和に伴う経済活動の回復や、価格転嫁の進展から、個人消費関連業種を中心に改善を続けた。（日本銀行「経済・物価情勢の展望2023年7月」）
- ・卸売業ならびに関連の深い小売業に限定してみると、6月は改善傾向が見られたが、先行きはやや悪化している。引き続き、プラスを維持しているが、原材料のコスト高などを背景にやや慎重な判断となったと推察される。



・有効求人倍率は求人数の回復により徐々に増加していたが、直近はやや落ち着いている。2023年6月の数値をみると、有効求人倍率は1.30倍となり、前月比で0.01pt減少、前年同月で0.03pt増加した。有効求人数は前月比、前年同月比共に横ばい。19年1月と比較すると、全体で10.7%減となった。有効求職者数は前月比で0.6%増、前年同月比で2.6%減、2019年1月比では11.9%増となった。

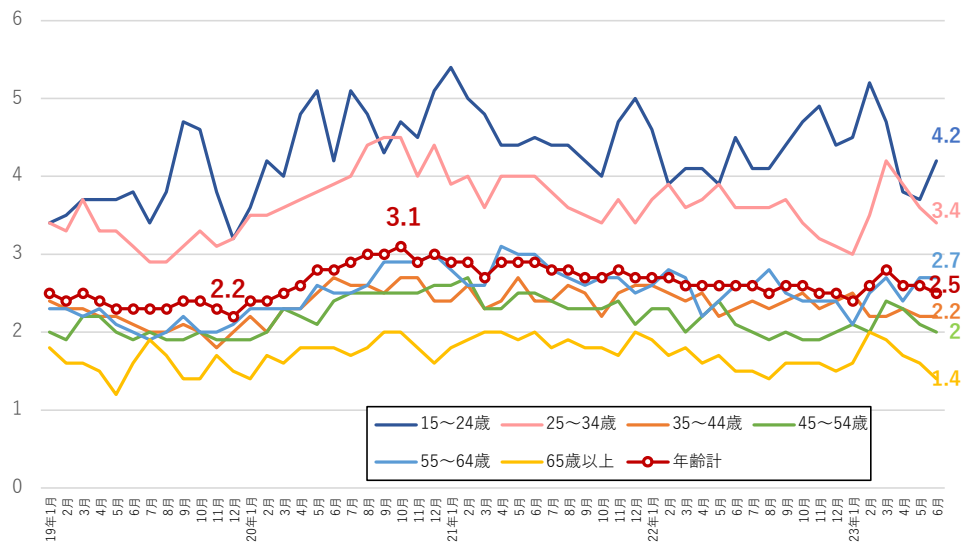
・卸売業の新規求人数の推移をみると、2023年4月以降、やや減少傾向となっており、2023年6月は対前年同月比96.4%だった。



# 完全失業率は2023年6月時点で2.5%に回復。 卸売業の不足感は-29、先行きは-33とより不足感が高まる予想。

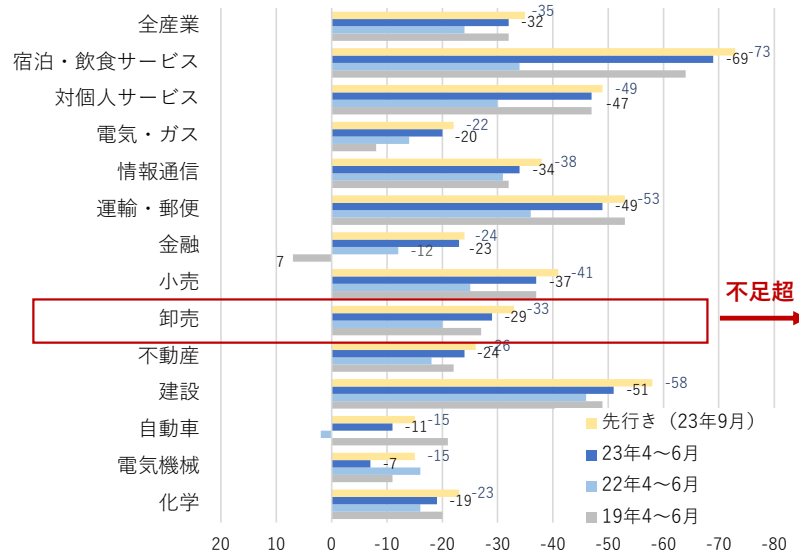
- ・完全失業率はコロナ禍の影響を受け、2019年12月の2.2%から2020年10月には3.1%まで上昇した。しかし、その後は緩やかに改善がみられ、直近の2023年6月では2.5%まで回復している。年代別にみても15～24歳を除く全ての年代で失業率の改善がみられる。今後について、人手不足感は依然継続しており、完全失業率は緩やかに改善すると予想される。
- ・卸売業の人材不足感は-29と全産業に比べるとやや低いが、先行きでは-33とさらに4.0pt不足感が高まると予想されている。

完全失業率



総務省統計局「労働力調査調査」完全失業率 年齢階級別 (季節調整値) より作成

雇用人員判断D.I. (過剰-不足)



日本銀行「全国企業短期経済観測調査」業況判断D.I.より作成

# 卸売業の商業販売価格は前年同月比0.2pt増 主要卸売業のなかでは医薬品・化粧品卸売業の増加幅が大きく11.5%増

商業動態統計によると卸売業の2023年6月における販売額は49兆10億円で前年同月比は0.2%増加。産業別でみると、医療品・化粧品卸売業の前年同月比11.5%増と増加幅が最も大きく、次いで、食品・飲料卸売業が11.3%増だった。一方で、鉱物・金属材料卸売業では前年同月比は14.4pt%減だった。

## 卸売業の全体的な動向

2023年5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、行動制限のない日々が再開した。原材料コスト高による値上げなども行われているが、消費行動は回復傾向にある※1。またインバウンドも復調傾向※2にあり、これらに関連した業態で増加が見られる。

引用元：※1：消費動向調査 2023年7月（内閣府）、※2：訪日外客統計 2023年6月推計値（JNTO）

## 業種別の販売動向

各種商品卸売業が前年同月比20.1ptの減少、鉱物・金属材料卸売業が同14.4ptの減少、機械器具卸売業が同2.8ptの減少、衣服・身の回り品卸売業が同2.2ptの減少、その他の卸売業が同2.2ptの減少、化学製品卸売業が同2.1ptの減少、繊維品卸売業が同0.9ptの減少、建築材料卸売業が同0.9ptの減少となった。一方、医薬品・化粧品卸売業が同11.5ptの増加、食料・飲料卸売業が同11.3ptの増加、農畜産物・水産物卸売業が同8.5ptの増加、家具・建具・じゅう器卸売業が同5.1ptの増加となった。

引用元：商業動態統計月報 2023年6月（経済産業省）

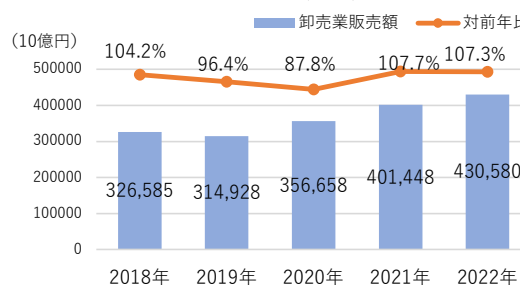
販売額（単位：10億円）  
（全体）

商業計			卸売業			小売業		
販売額	前年同月比	季調前月比	販売額	前年同月比	季調前月比	販売額	前年同月比	季調前月比
49,001	0.2%	-0.3%	35,776	-1.8%	-0.6%	13,225	5.9%	-0.4%

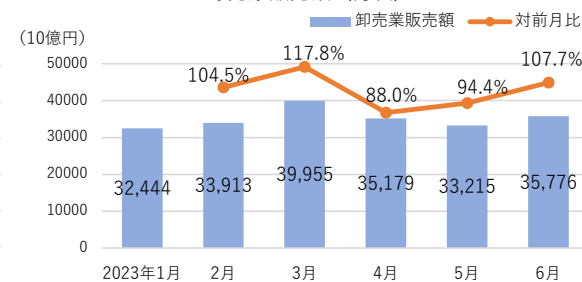
（主要卸売業の前年同月比増減率）

卸売業（全体）	各種商品卸売業	農畜産物・水産物卸売業	食品・飲料卸売業	鉱物・金属材料卸売業	機械器具卸売業	医薬品・化粧品卸売業
-1.8%	-20.1%	8.5%	11.3%	-14.4%	-2.8%	11.5%

卸売業販売額（年次）



卸売業販売額（月次）

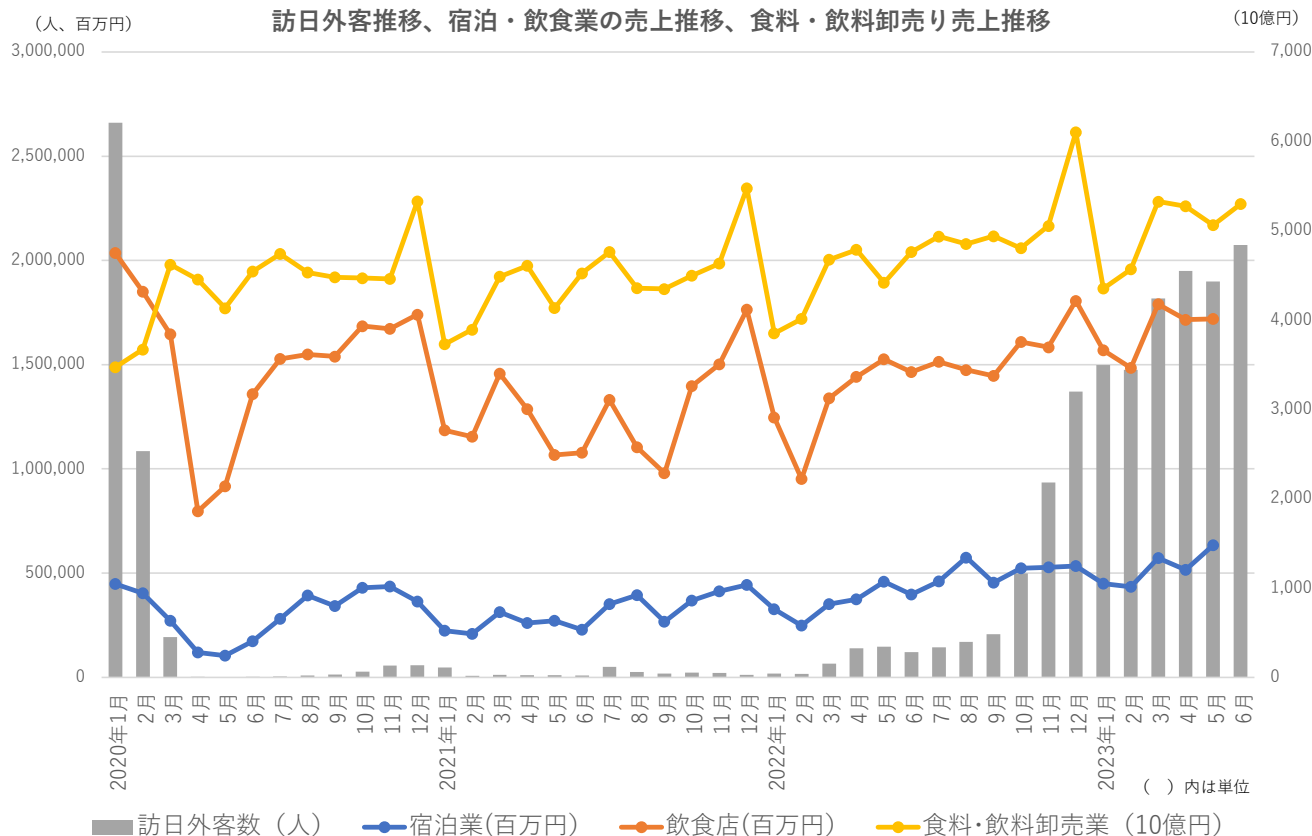


引用元：商業動態統計月報 2023年6月（経済産業省）

## 2022年後半から徐々に飲食・宿泊業の売上が回復し、食品・飲料卸売業の売上も回復、訪日外国人増加がさらなる後押しに

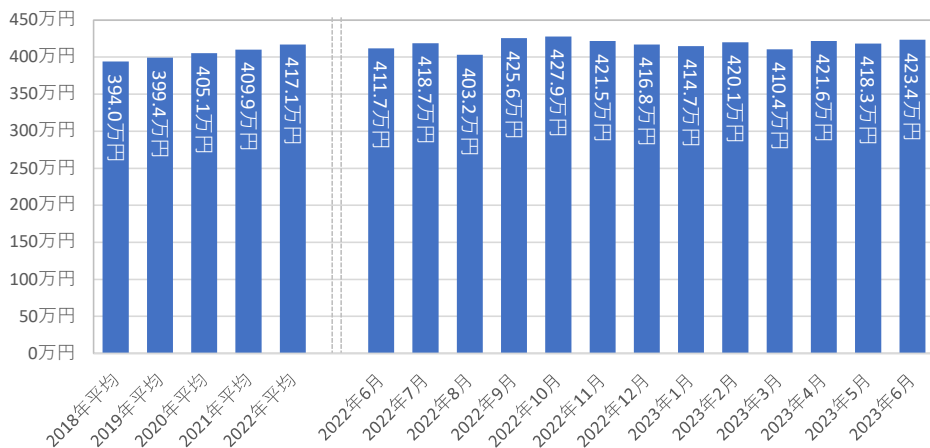
・2022年後半から徐々に飲食・宿泊業の売上が回復してきたが、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行、訪日外国人観光客の増加がさらなる後押しになっている。それに伴い、食品・飲料卸売業の売上も回復傾向にあり、今後もその傾向が高まると予想される。

・食品・飲料卸売業の売上は卸売業全体の13.6%（2022年度）を占めるものだが、主要卸売業のなかでは2022年12月以降、連続して前年同月増加率が10%を超えており、卸売業のなかでも見通しの明るい業種だといえるだろう。



卸売業の求人数は、全体的には増加傾向にあり、特に2023年6月においては2018年の年間平均掲載社数と比較して2.2倍となっている。正社員の平均初年度年収に関してはわずかに増加傾向が見られるが、ほぼ横ばいとなっている。

卸売業の平均初年度年収



マイナビ「正社員の平均初年度年収推移レポート」より作成

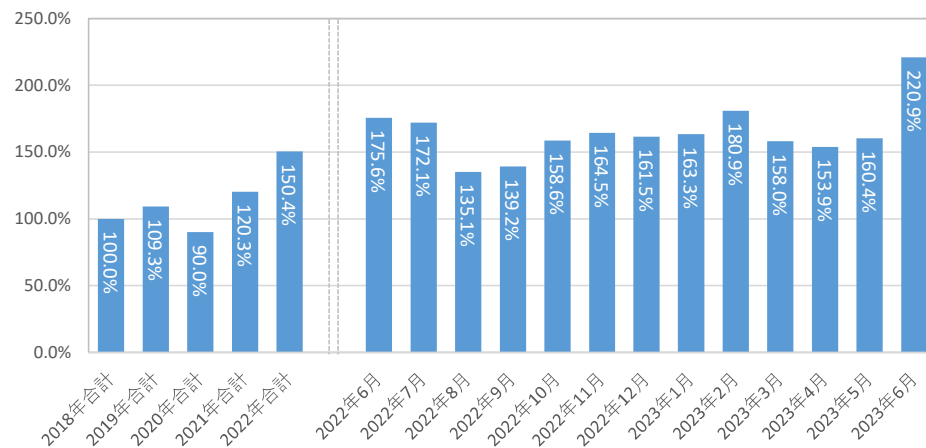
## 「正社員の初年度年収レポート」における年収集計方法

該当月における、総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除き集計。厚生労働省「国民生活基礎調査 所得の分布状況」を元に、所得金額上側1%を本レポートでは外れ値として設定。

マイナビ転職では、初年度年収は各求人ごとに幅をもって記載されているが、当レポートでは各求人に掲載されている初年度年収の下限と上限の中間の値を平均値として「初年度年収」を算出した。

卸売業の求人数推移

※2018年平均値を100%としてグラフ化



マイナビ「正社員の求人数・応募数推移レポート」より作成

## 「正社員の求人数・応募推移レポート」における求人数集計方法

該当月における、弊社総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除き集計。